アンチ・ドーピングコラム

2025年禁止表国際基準の主な変更点

一般社団法人山口県薬剤師会
薬剤師・スポーツファーマシスト
神谷　浩貴

最新のアンチ・ドーピング規則として、禁止表国際基準は毎年１月１日に改定されます。今回は、2025 年禁止表の主な変更点についてみていきましょう。

2025 年禁止表の主な変更点 5つのポイント

M1.血液および血液成分の操作

認定を受けた採取センター（日本の場合は、日本赤十字社の献血ルーム）で行うアスリートからの全血献血と成分献血は禁止されないように注意点が追記されました。これは問合せが多かった注意の部分をより明確にしたものとなります。

S3.ベータ２作動薬

これは喘息治療をされている方、喘息の疾患をお持ちの方に改めて確認していただきたい項目です。

吸入ホルモテロールについて投与間隔が見直され、24 時間で最大投与量 54μg に加え、「いかなる用量から開始しても 12 時間で 36μg を超えないこと」が追加されました。そのため、投与量を必ず守って服用するようにしてください。喘息の薬には禁止物質が多く、注意が必要です。喘息の方は必ずアンチ・ドーピングに関して詳しいスポーツドクターやスポーツファーマシストに相談しましょう。

P1.ベータ遮断薬

これは、特定競技において禁止される物質ですが、特定競技からスキー、スノーボード競技が削除されました。スキー、スノーボード競技の方で、これまでベータ遮断薬で TUE 申請をされていた方は不要になります。

禁止物質の変更

S6.B 特定物質である興奮薬として例示されていたヒドラフィニルが、S6.A 特定物質でない興奮薬に移動しました。これは、治療目的での使用が見受けられないためです。「特定物質である」と「特定物質でない」という表現は、重要性や危険性の違いを示したものではなく、万が一、ドーピング検査で違反物質が検出された場合の資格停止期間に影響を及ぼすものですのでカテゴリーが違っても引き続き注意が必要です。

監視プログラム

監視プログラムとして、競技会外におけるフェンタニルとトラマドールが加えられました。ただし、フェンタニルもトラマドールも S7.麻薬で禁止されている物質ですので、競技会時に禁止されていることに変更はないので注意してください。

この他にも各項目で禁止物質の例示が追加されています。詳しくは日本アンチ・ドーピング機構（JADA）のホームページにウェビナーが公開されていますので、ぜひご視聴ください。

アスリート向けのウェビナー
「2025 年禁止表国際基準と主な変更点」
(https://youtu.be/jC2PEblJeUw)

参考：日本アンチ・ドーピング機構／クリーンスポーツ・アスリートサイト